

看護・助産を学ぶ学生の性教育

静岡県立大学の取組

静岡県立大学では、看護師や助産師を目指す学部生・院生のための性教育にも力を入れています。独自の取組や、看護の視点から見た性教育について聞きました。

看護学・助産学としての性教育

太田尚子さん・藤田景子さん

太田 静岡県立大学では、「性と生」や「健康」を考慮するための性教育に取り組んでいます。大学院の助産学課程では、コンビニや薬局に市場調査に行き、避妊具の販売方法や購入のしやすさを、女性目線で考える体験型授業もあります。2010（平成22）年からは、助産学課程の院生が若い感性を生かして、学部1年生に講義する形式の性教育を行っています。自らが教えることで、院生が自分の中にある、性に関する偏見に気づき理解を深める体験ができます。

藤田 最近「未来のための選択」をテーマに選び、性的自己決定権や自他の体を大切にすることの重要性を学部生に教える院生が多いです。劇やクイズを取り入れた授業に、学部生も真剣に聞き入っています。恥ずかしがらずに、いきいきと性の話ができる院生の姿は、学部生の良いお手本ですね。看護師や助産師は、不妊症や中絶などの問題にも関わる職業です。学生には、悩んでいる人に選択肢を与え、人生を考えるサポートができるようになってほしいです。

家庭性教育のメリットと課題

太田 性教育は、本来は年齢ごとに段階を踏んで学んでいくべきものです。学校教育では生徒一人ひとりの状況に合わせることは難しいですが、家庭では子どもの特性や性格を踏まえて、細やかに実践できるという良さがあります。以前、家庭性教育に関して院生が調査したことがあります。子どもにいつ何を話すべきか、多くの親が悩んでいることが分かりました。保護者自身が学べる場がないと、性教育の第一歩が踏み出せないというのが今の課題ですね。

自分と人を大切にするための性教育

藤田 私たちは性暴力やDVの問題にも取り組んでいます。被害に遭った人は、生きることにも悩みを感じることがあります。性は、時には病気や傷つきの原因となってしまうこともあります。だからこそ、性に対する正しい情報が大切です。家族や自分自身の健康維持のため、そして幸せな人生を送

本から始める性教育



お家で性について学べる本をご紹介します。自己学習や家庭での会話のきっかけに役立ててみては？
●あざれあ図書室で借りることができます。

コウノトリがはこんだんじゃないよ！ 4歳からの性教育の絵本

ロビー・H・ハリス 著 マイケル・エンバーリー 絵
子どもの未来社



「赤ちゃんはどこから来たの？」という素朴な問いに、分かりやすく正確に答える一冊。生殖だけでなく、ジェンダー平等や多様性など、1冊で幅広い知識が学べます。

「いや！」というよ！ 性ぼうりょく・ぎゃくたいにあわない

嶋崎政男 著 すみもとななみ 絵
あかね書房



具体例や対策を挙げながら、子どもが性暴力や虐待について家族や友達と話せるよう解説。子どもの不安や傷つきに寄り添った対応や相談窓口の情報も。

おうち性教育はじめます 一番やさしい！防犯・SEX・命の伝え方

フクチマミ・村瀬幸浩 著
KADOKAWA



保護者と専門家の対話を通して、子どもの安全や尊厳を守るための性教育の重要性を考えるコミックエッセイ。父親やひとり親の家庭も取り残さず一緒に性を考えます。

親子で話そう！性教育 子どもを性被害から守るために大切なこと

浅井晴夫・良香織 監修
朝日新聞出版



年齢に合わせた性教育やいざという時の対処法、ネットの利用など、今どきの性教育に関する情報が満載。性教育の国際的な指針も紹介されています。

産婦人科医 宋美玄先生が娘に伝えたい 性の話

宋 美玄 監修 カツヤマケイコ 漫画
小学館



性被害防止や妊娠、心のケアまで、性を通して子どもと人生を考えるヒントになる本。医師や専門家ならではの役立つ情報や、男の子のいる家庭向けのアドバイスも。

するためのツールとして性教育を役立ててほしいと思います。



助産学分野大学院生による、看護学部1年生への性教育の授業

海外の性教育を学ぶ「COIL型授業」

静岡県立大学看護学部では、2019（令和元）年11月に国内外の大学と合同で、オンラインを活用した双方向型の「COIL型授業（注）」を開催しました。「若者への性教育」をテーマとして、若者を取り巻く性や健康、性教育の現状について話し合いました。主な参加者は、上智大学、米国のポートルランド大学、モンゴルの国立ドルノゴビ医科大学の看護学生たちでした。

米国の学生からは、妊娠・出産に関わる女性の死亡率の上昇が報告されました。貧困や医療格差と関係の深い、人種の問題が背景にあると言われています。一方、ほぼ全州の中学校・高校で性教育が行われ、緊急避妊薬が入手しやすい地域も多い米国では、10代の妊娠は減少傾向にあるようです。

モンゴルでも、安価に購入できるピルが普

及しているとのこと。女性用の避妊具が男用より高価であるという問題もあります。モンゴルや米国では避妊方法の選択肢は多いようです。また、都市部だけでなく、地方にも若者の性の健康を守るための専門家がおり、相談しやすい仕組みになっています。

参加者は、海外の情報に驚きながらも、看護や助産の仕事で生かすための学びを深めたようです。

注）COIL型授業（Collaborative Online

International Learning）：情報通信技術

活用し、海外の学生と共同で授業を開催す

るプログラム。静岡県立大学では、文部科

学省の事業の二環として2018（平成30）

年度から取り組んでいます。

海外の性教育から見えた課題

根岸まゆみさん

今回の授業では、国際的にも関心が高い「若者への性教育」を扱いました。他国と比べると日本は医療が充実していますが、性教育に関しては海外に見習うべき部分も多く、学習の刺激になったと思います。米国やモンゴルでは、若者が性の悩みを相談できる環境が日本より整っていることに、学生たちも驚いていました。ネットで何でも調べられる時代でも、相談できる人が身近にいることは大切です。そして、若い人が性について積極的に話せるような教育の提供や環境作りが必要だと考えます。

歴史的に、女性は抑圧されてきました。

SDGsの目標5にあるように、ジェンダーの平等は今も世界共通の課題です。望ましい妊娠や中絶、性感染症など、女性が負う心身のなりリスクを含めた問題解決に取り組むには、性教育にもジェンダー平等を考慮した取組が必要です。

今回の授業に参加して、海外の参加者と同じ看護の道を目指す者としての連帯感を感じた学生が多かったようです。文化や習慣は違っても、看護には国境がありません。学生たちには、今回の経験と学びを今後の看護に生かしてほしいと思います。



根岸まゆみさん
静岡県立大学看護学部看護学科
（国際看護学）講師



藤田景子さん
静岡県立大学看護学部看護学科
（母性看護学）准教授、看護学
研究科（助産学）准教授（兼務）



太田尚子さん
静岡県立大学看護学研究科（助産
学）教授、看護学部看護学科（母
性看護学）教授（兼務）、看護学部長

これまで、性暴力やDVは、個人の問題と見なされてきました。しかし近年では、社会全体で考えるべき課題であるという認識が広まっています。性暴力事件の無罪判決に多くの抗議の声が寄せられたことや、相談窓口の充実が図られていることから分かるように、性の問題は一人で抱えるものではなく、他者と問題を共有できた時、解決の糸口が見つかります。本来、性はプライベートなものです。家庭や地域、そして社会全体でいかにこの問題を共有していくかについては、今後の課題の一つといえるかもしれません。

日本では性教育が遅れているとよく言われますが、最近はその重要性に気付く人も増えています。性教育が書籍やテレビ番組で特集されるなど、行政だけでなく、民間でも性教育の新しいあり方が模索され始めています。教育によって正しい性の知識が普及すれば、ジェンダーに起因する暴力に対する社会の取組も大きく変わってくるでしょう。

性は、生きる上で大切なものである一方、人を傷つける可能性をはらんでいます。だからこそ、子どもが、信頼できる大人から正しい知識を学ぶことは、子ども自身の安全や未来を守ることに繋がります。まずは、プライベートゾーンの知識を伝えることから始めませんか。性教育は、暴力を防ぐだけでなく、自他の心身を尊重する心を育むのです。

（袴田くるみ）

子どもに何を伝える？ 家庭での性教育

子どもに性のことを教えたければ、何から話したら良いの…?と悩む人も多いのではないのでしょうか。子育て情報メディア「KIDSNA（キズナ）」を運営する株式会社ネクストビートが行ったアンケートでは、子育て世帯の約8割が、家庭での性教育を「実施していない」「必要性を感じているが実施していない」と回答したと報告されています。「ねっとわあく」では、編集員の身近な人（20代～70代）に、家庭での性教育について話を聞いてみました。

自分が子どものころ、家庭で性教育を受けましたか？

YES

1人

NO

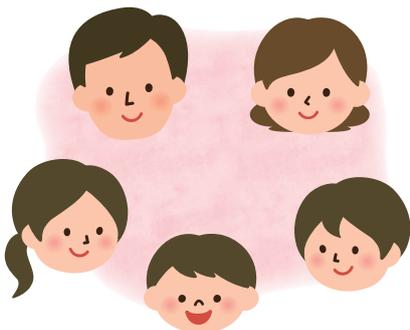
6人

子どもの頃に家庭で性の話を聞いたという人は、かなり少ないようです。YESと答えた人は、小学生の頃に母親から性教育の絵本を読んでもらったそうです。当時は少し恥ずかしかったようですが、中学・高校と成長するにつれてありがたさが分かるようになったとのことでした。子どもが小さいうちは、性教育の意味が伝わりにくいこともあるかもしれません。でも教育を積み重ねることで、年齢が上がるにつれ子どもも「大切なことを教えてもらった」と気づくはずですよ。

現在、家庭でどのような性教育をしていますか？

- 自分子どもは、まだ生後半年なので、これからパートナーと相談して始めていきたい。
- 幼稚園児の娘に、下着で隠れている場所は自分以外の人に触らせたり見せたりしてはいいない、いやな思いをしたら、すぐに教えてね、と伝えている。
- 孫がいるが、テレビ等を見ていると、自分が育った時とは本心に違つて感じる。学校などで、どんなふうに子どもに性を伝えているのかなと思つた。
- デートDVについて、学生と議論した。＊大学の教員
- ニュースで性に関する話題や事件を目にした時、子どもと1対1の場面で話をする。
- 昔より、多くの情報が手軽に見たり聞いたりできる時代。子どもが大きくなってきたら、正しい情報、偽の情報をしっかりと判別できるように育てたいと思つた。

現在子育て中または子育て経験のある方に話を聞きました。子どもが小さい家庭では、プライベートゾーン（13ページ参照）を教えることもあるようです。テレビでの話題があった時は、性教育のチャンスと考え、会話のきっかけにしてみるのも一つのアイデアです。ネットやSNSに情報があふれる今、自分の育った時代との違いに戸惑いを感じている人も多い様子。これからの時代は、情報の見分け方を教えることも重要な性教育になりそうです。



アンケートの回答を読むと、子どもには性の知識を持つてほしいと思いつつも、自分自身も学んだ経験や機会がなく、悩む人が多いことが分かります。性教育は思春期から、というイメージもありますが、もっと幼い子どもでも性被害に遭う可能性はあります。子どもは被害に遭つても認識できず、大きくなってから後遺症に苦しむこともあると言われています。認識できた場合でも、加害者から沈黙を強いられるたり、自分が悪いと思ひこんでしまつたりして1人で抱え込んでしまうことも多いようです。困ったときは相談して良いのだと教えることは、子どもを守り自尊心を育むことにつながります。性教育に初めて取り組む保護者・子ども向けに、読みやすい本も数多く出版されていますので、17ページの書籍も参考にしてみてください。

静岡県男女共同参画ポータルサイト 「あざれあナビ」

～つなぐ・むすぶ・チカラになる～

あざれあナビは、「男女共同参画」をキーワードに、官民協働の「楽しい&お役立ち」情報を発信しています。静岡県民の男女共同参画社会の実現に向けて、情報を知りたい方・学びたい方、また講座・イベントの企画を広報したい方など、様々な場面でご利用ください。

ふじのくに 女性活躍応援会議

静岡県内産業界の女性活躍に関する情報・取組を紹介！

あざれあ施設 利用案内

会議室、ホール、茶室など用途にあわせてご利用ください！

あざれあ相談 (女性相談・男性相談)

悩んだ時、困ったときは、あざれあへ



あざれあ図書室情報
男女共同参画関連の資料探しにおすすめ！

講座・イベント情報
男女共同参画、ジェンダー、人権等について学びたい方必見！ たくさんの講座・イベントを掲載！ ※情報掲載をご希望の方は、あざれあまでお問い合わせください。

地域の防災力
男女共同参画の視点から防災情報を紹介！

ねっとわあく
1982年創刊号から最新号まで、全75号を閲覧&ダウンロードできます！ P21,22で取りあげているvol.6も全ページ掲載！

ほか、助成金・補助金、男女共同参画社会づくり宣言事業所・団体の取組、人材データベースなど、様々な情報が満載！

お問い合わせ

特定非営利活動法人 静岡県男女共同参画センター交流会議 事業課 (平日9:00～18:00)
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1-17-1
TEL:054-250-8147 / FAX:054-251-5085 / MAIL:info@azarea-navi.jp
「あざれあナビ」URL:https://www.azarea-navi.jp/



あざれあナビ

「ねっとわあく」アーカイブ

1982 (昭和 57) 年創刊から 38 年、今号で 75 号になる「ねっとわあく」。過去の記事を取り上げ、ねっとわあく編集員が今の時代と比較して、思ったこと、感じたことをコメントしました。

当時「婦人のための情報誌」であったことから、アンケートも「女子高校生」に回答を求めている。現在であれば、男子高校生にも回答を求めるだろう。

特集 しつけと性役割

女子高校生へのアンケート

あなたの家族・家庭のしつけは？

質問

1. お母さんの毎日の過ごし方について、どんな感想を持っていますか。
2. どんなお父さん、お母さんが理想的ですか。
3. お父さんとお母さんの関係について、どんな見方をしていますか。
4. 家庭の中で男女差別を感じたことがありますか。例えば、他のきょうだいと比較して。
5. 中学から高校に進む時の選択はどのように行われましたか。
6. あなたの将来について、どう考えているかきかせて下さい。

現在の高校生は、昭和41年から昭和44年3月頃までの、経済の高度成長期の最も良き時代に生まれています。

若い人たちの新しい保守化傾向が指摘される中で、今の女子高校生達は、生まれ育った家庭のご自分の将来のことなど、どのように考えているのでしょうか。

ごく少数の例しかご紹介できませんが、編集員の身近な所から、聞いてみました。

公立・女子のみの高校・一年きょうだい―本人と兄

1 中途半端、主婦業によるこびを待っているようでもなし、バリバリ仕事や勉強をしているというわけでもないから。

2 母親―優しいこと、でもそれだけでなく、ちゃんとした考えや将来への見通しを持っていることも条件だと思う。

父親―男女差別をしないこと。うちの父は、すぐ「女の子だから」と言う。

3 一見亭主関白のようだけど、母も最終的には結構自分の意志を貫いているみたい。

母が父にゆずっているところは全く稼いでいないから仕方ないというところ、家の中で、社会的常識が欠けているのを自認しているの、そういう事がらについては主張できないからだと思う。

4 あります。父は当然のように「女の子だから」という理由でこまごました用を言いつけますし、



母は、たて前としては兄にも私にも同じようにしようとしているけれど、実際には差別しています。「世の中の要請がそうなのだから、やむを得ない」という理由で。

お手伝いでも何でも、私は家族の一人としてやるのは当然と思うからしませんが、女だから、と言われるのはいや。

5 最初の段階は成績で輪切り。その次の選択については、父母からかなり押しつけがあった。通学路が危険だとか、校風だとか―兄の時には全く本人の自由意志にまかせていたのに。

6 大学に行きます。

「新しい保守化傾向」次ページ下段 11 行目に連動。高度経済成長期を経て社会はバブル期突入直前。政治に関する考え方も上の世代とは変わってきている中、男子学生の女性観は変化せず、保守的なままであった。現在も男女の格差は縮まってはいない。結果として今もジェンダーギャップ指数、世界 153 カ国中 121 位と低いまま。

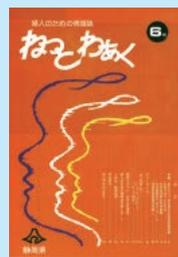
全く稼いでいないから仕方ない…「母親は外で仕事をしていないから社会常識が欠けていて父親に主張できない」と子どもが当たり前のように考えていたのは、今読むとショック。家事というアンケートに対する評価がまだなされていない時代だったんだ。

個人之力では解決できない問題に、「世の中の要請がそうなのだから、やむを得ない」と考えてしまうあたりは、今も変わらないようなところはあるかもしれない。家長制度が性別役割に大きく影響している。今だったら、「これは社会の問題だよ」と言ってあげられるのに。

- 高校生でありながら将来の夢や結婚のこと、両親との同居のことまで考えているのはすごい。
- 子育て中、親の態度がひとつの鍵。性別役割を押しつけない家庭で子どもが育ったら、男女共同参画社会の実現はもっと早いはず。アンケートから35年。ジェンダー格差はまだまだあるけれど、それでも、「以前より一歩前に出て、活躍する女性、自分らしく生きている女性は増えた」はずだ。

1985年はこんな年

『国連婦人の十年』世界会議がナイロビで開催。国内では、男女雇用均等法公布、労働者派遣法公布、女子差別撤廃条約が批准。4月フジテレビ「夕やけにゃんにゃん」が放送開始。おニャン子クラブ誕生。5月夕張炭鉱でガス爆発事故により62人が死亡。6月松田聖子と神田正輝が結婚。8月日本航空123便が墜落520人死亡。9月プラザ合意、ドル暴落。円が100円台に高騰。バブル景気へ。12月第2次中曽根第2次改造内閣発足。



1985(昭和60)年
発行第6号
特集しつけと性役割
『女子高校生へのアンケート』

子どもは3人ぐらい産んで、結婚後も仕事は続けて・・・と将来を考えてみたものの。現実には、親と同居していれば仕事を続けることも難しくないかもしれない。産休・育休を同僚に気兼ねしながら取得、保育園、放課後児童会、と女性が働き続けるためには様々な問題にぶち当たる。安心して生み育てられる環境はまだ十分ではない。

当時の女子高校生が差別を感じる時は、手伝いや片付けなど、家事においての場合が多いのは、まだ社会にでていないからなのだろうか、経験が少ないだけなのか。

両親とは別に住んで、時々帰る程度・・・バブル前の社会の雰囲気はこんなふうだったのだろうか。

- 女性の大学進学率が上がり、母親世代とは考え方も生活の仕方も変わりつつあるころだったと思う。さらに今は、アンケートに答えていた女子高校生が母親となり、その子どもが20歳前後と考えると、今の子どもたちがこのアンケートを読んだらどう思うのだろうか。
- 女性の幸せは家事育児に専念すること、と男性が定義しているのが不思議。男性が女性に求める理想の姿だったのかもしれないが、今の時代、こんなことを言ったら大バッシングを受けること必至。
- 当時は、共働きはしたくない、しないでほしいと思っていたが・・・。現在は共働きでないと多くの世帯が家計を維持できない時代になった。子育てのために仕事を辞めるという選択ができないから、非正規のパートで短時間の働き方を選ばざるを得ない。

父親をたてることも大切・・・決定権を持つのは父親という価値観が当たり前だった時代なんですね。今はどうだろう？

特集 しつけと性役割

- 1 行動力、実践力に富み、エネルギーに生きているので、尊敬している。
- 2 母親—もの考え方が一貫し、本気で褒め、叱ってくれるのが理想。父親をたてることも大切だと思います。
- 3 時として意見の食い違いはあるけれど、仲の良い夫婦だと思う。母は父をたて、父は母によく気を使っている。
- 4 部屋の掃除などは弟もやるし、特に差別は感じていません。また、男らしく、女らしくという壁は受けていません。
- 5 父母のアドバイスに耳を傾けて決めました。
- 6 進学して、小学校の教師になりたい。弟が私か、どちらかが両親といたい。



- 1 働いていて大変だと思う。忙しい忙しいと言っているの。
- 2 母親—明るく見られたい、ちょっとしやべり過ぎみたい。父親—今のままが理想。
- 3 どちらかといえば、かかあ天下の方。父は、ここぞという時はさどららかといえ、かかあ天下。
- 4 弟や妹へのしつけと違いはなく特に男の子らしく、女の子らしくということはない。
- 5 父からは「女の子だから部屋の片づけはしっかりしなさい」と言われたことはある。
- 6 進学して、一般の会社に勤めた方がいいになるような、自分に適した仕事をしたい。
- 7 両親とは別に住んで、時々帰る程度、結婚して子どもを持つても仕事は続けていきたい。

- 1 私達母親の世代と比べて、自分の将来に対する考え方は、確かに変わってきていると感じました。これに対して、将来彼女達と共に歩むはずの若い男性達の意識はどうなのか、と少し心配になりました。
- 2 本年一月十日付の中日新聞に、「男子学生の女性観は保守的」という見出しで、千葉大の女子学生が首都圏の男子学生を対象として行った調査が載っていました。それによれば、66%が「女性の幸せは家事育児に専念すること」65%以上が「伴侶の共働きはノー」80%以上が「育児のために仕事は辞めるべき」と答えています。人間は男女にかかわらず、持てる可能性を精一杯開花させて、生きたいと願うものです。が、このデータを見る限り、まだまだ女性も男性も、お互いの意識のギャップに苦しむ社会が続きます。男も女も、共に主体的に生きられる社会の実現のために、私達は何ができるのでしょうか。
- 3 子育ての場での親の態度が、そのひとつの鍵になるはずだ、と強く感じました。

編集員 新井米実



※ねとわあくのバックナンバーはあざれあ図書館及びポータルサイト「あざれあナビ」で閲覧できます。

あざれあ ネットわあく

【URL】 <https://www.azarea-navi.jp/netwaaku/>



編集後記



● 2020年4月。浜松市でパートナーシップ宣誓制度が始まり、その第1号として宣誓をした。一步前へ踏み出してみると、今までの「現状維持」の生活が一変（現状維持は後退である、とも）。ずいぶん、自分や周りの変化に敏感になった。声を上げることの大切さ、意味を感じている。私の小さな一歩も、社会のムーブメントを動かす一歩になっていると思うと、向かい風に負けず、その一歩を踏ん張って、さらにもう一歩前へ、という気持ちになる。向かい風上等！ 私は前に進んで行きたい。

(編集長 國井良子)



● 今回、初めて編集に参加させていただきました。自分自身も十分に受けてこなかった性教育ですが、取材を通してその重要性を痛感しました。大人になってから始めても、学べることはたくさんあるはず。今回の記事が、その第一歩になれば幸いです。

(袴田くるみ)



● 84歳の父に映画「浅田家！」を観に行こうと誘われた。「えっなに？ まさかの嵐ファン？」と笑う私に「地元が舞台の映画だから」。そうか、コロナ禍の中、好きな映画にも遠ざかっていたな、情報も仕入れていなかったなとしみじみ。映画だけでなく、いろいろなことにアンテナが低くなっている今日この頃。高めていかないと、アンテナも意識も好奇心も。

(渡邊圭子)

編集員募集のお知らせ

募集人数 若干名

仕事内容 男女共同参画の今を知る情報誌「ねっとわあく」(年1~2回発行)の企画、取材、原稿案の作成・編集から発行まで

作業会場 静岡県男女共同参画センターあざれあ

※平日昼に編集会議を10回程度行います。

※提出書類、募集締切等詳細は、WEBサイト「あざれあナビ」でご確認ください。2021(令和3)年2月頃掲載予定

問い合わせ先 あざれあ交流会議 事業課

TEL: 054-250-8147 (平日9時~18時) mail: info@azarea-navi.jp



ねっとわあく

2020/12/25 Vol.75

発行日/令和2年12月25日

企画・編集・発行/あざれあ交流会議グループ

〒422-8063 静岡市駿河区馬淵1丁目17-1

TEL/054-250-8147 FAX/054-251-5085

編集長/國井良子

編集員/袴田くるみ、渡邊圭子

印刷/星光社印刷株式会社



「ねっとわあく」は年1~2回発行します。県内の男女共同参画センター、市町役場、図書館などの公共施設で配布しています。「ねっとわあく」のバックナンバーは、あざれあ図書室や静岡県男女共同参画ポータルサイト「あざれあナビ」で閲覧できます。

あざれあナビ <https://www.azarea-navi.jp/>

